

加茂法話会

平成二十七年九月十八日

見附市

智徳寺 平澤俊隆

【演題】聞いて、見て、やってみる

【引用】古人云く、聞くべし、見るべし

古人は「耳で聞きなさい、目で見なさい。」と言っている。また、「実際に経験していないなら目で見なさい。目で見ていないならば耳で聞きなさい。」とも言っている。

その意味は、「耳で聞いたら、実際に目で見なさい。目で見たら、実際にやってみなさい。まだ自分でやったことがないならば、せめて見ておきなさい。まだ見ていないならば、せめて聞いておきなさい。」ということである。

また言われた。

仏道を学ぶ心得として、まずもとからのとらわれた気持ちをつかりなげ捨てるがよい。作法にしたがって姿勢を整えると、心もそれにつれて正しくなる。まず、戒律に定められた行いを守ると、心もそれにつれて改まるはずである。

仏道も学ぶ人も、はじめから道心がなくても、自分の気持ちにさからってでも、仏道をすてずに学んでいると、しまいにはほんとうの道心がおこってくるはずである。

正法眼蔵随聞記（水野弥穂子 訳 筑摩書房）一・五（p24）

古人云く、聞くべし、見るべし